

川崎市議会第3回定例会は12、13日、代表質問を行

い、自民党の矢沢孝雄（宮前区）、公明党の河野忠正（幸区）、みらいの堀添健（高津区）、共産党的勝又光江（麻生区）の4氏が質問に立った。福田紀彦市長は普通交付税の不交付団体ゆえの制約で、厳しい財政運営を強いられている現状に関し「財政力指数を用いた国庫補助金の割り落としなどは不合理な制度で、国に改善を求めていく」との考え方を示した。

（桐生 勇）

## 川崎市議会論戦から

### 不合理制度に改善要求



矢沢 孝雄氏

現行の地方交付税制度が抱える矛盾の改善を求め、7月に麻生太郎財務相と会



河野 忠正氏

学校の耐震化の一環で行なわれている窓ガラス飛散防止フィルムは耐用年数が約10年。貼付の現状と今後の張り替えの考え方。



勝又 光江氏

少人数指導について、

級について、少人数指導

小学校へのアンケートで文部科学省の立候補者であると考

は高い評価を得られている。これに関する見解と市立学校での実施状況は。

渡邊 直美教育長 一定の効果があると考えている。市立学校でも少人数学級や少人立候補者であると考

数指導などを選択できるようにしている。教育環境の充実を図ることが重要と考える。

た。内容と成果は。福田 紀彦市長 不交付団体の川崎市は、さまざまな制約やふるさと納税の影響による減収などで財政が厳しいという現状を伝えた。財務相には一定の理解をいただいた。

10年。貼付の現状と今後の張り替えの考え方。

15校のうち102校の貼付が完了する。1995、96年につき、全体的に劣化があり、張たが一部に劣化があり、張

り替えを検討する。

堀添 健氏

市内でヘイトスピーチを繰り返している男性らが6月に企画した集会の中止後、会に企画した集